

第20回 特別講演会

消えゆく、「どうでもいい虫たち」

小松 貴 先生（九州大学熱帯農学研究センター）

今の日本には絶滅しそうな虫（昆虫、クモ、多足類を含む）が多数おり、各地でそれらを守ろうという動きが盛んです。国や自治体が立ち上がり、絶滅しそうな虫を一生懸命保護しようがんばっています。しかし、皆さんはおかしな事に気づきませんか？そうして人々が各地で一生懸命保護しようとする虫が、どれもみな大きなチョウやトンボ、甲虫ばかりであることに。現在、環境省が公開する昆虫のレッドリスト（絶滅が危ぶまれる種のリスト）に載った全868種のうち、チョウ、トンボ、クワガタなど人気の高い甲虫をあわせた種数は、およそ170種。それ以外は米粒ほどの甲虫、ハチ、ハエ、地味な蛾ばかりなのです。そもそも、昆虫という分類群の中で、アゲハチョウやカブトムシのように「人が歩きながら簡単に認識できる大きさ」の虫のほうが例外的で、大概の昆虫は小さく目立ちません。小さな多数派たるそれらを見つめずに、派手な生き物ばかり担ぎ「自然保護」とうたっているのが、日本の現状です。地味な虫の中には、もしかしたら我々の想像を上回る不思議で楽しい生態を持つものがあるかも知れないのに、もったいないですよ。

私は、アリの巣の中にいそうろうする虫の研究を行うかたわら、身近な裏山を舞台に「絶滅しそうなのに誰一人見向きもしない虫」の生態解明を進めてきました。この講演では、これまで私が調べてきた人の役にまったく立たない虫の話を通じて、自然を保護する・科学する事の意味を世に問います。



▲絶滅危惧種カエルキンバエ
(情報不足カテゴリー、2012年版)

- ・開催日時：平成27年2月14日（土）13：00～14：30
- ・場 所：豊田ホタルの里ミュージアム 多目的ホール
- ・受講料：無 料
- ・申し込み：電話・FAX・E-mailにてお申し込みください。
豊田ホタルの里ミュージアム
電話：083-767-0350 FAX：083-767-0355
E-mail：kittsomu@city.shimonoseki.yamaguchi.jp
- ・申込締切：定員になり次第締め切らせていただきます。
- ・定 員：40名